

○素案関係

発言者	意見概要	対応案(ページは資料7 素案の修正箇所)
後藤委員	親の学び講座について施設の増加を掲げるが、本当に来てほしい方々に伝わっていない印象がある。例えば定期健診で周知するなどできないか。	「福祉部局との連携による乳幼児健診の機会活用」、「自宅で学ぶことができる映像資料の活用」について追記します(P1)
飛松委員	『道徳教育の資料を活用した学校』と『「熊本の心」を活用した学校』の指標はまとめても良いのではないか。	前者については、「豊かな心を育む教育の充実」のための道徳科授業力の向上、後者については資料の活用による「ふるさとを愛する心の醸成」という観点で取組を進めるため、それぞれの切り口で指標を設定しており、両指標を掲載します
河田委員	『いじめへの対応』について、『互いの人権を尊重し支え合う集団づくり』があって、その後やむを得ず事案がある時に援助希求能力が必要とされるのではないか。	該当部分の表現を修正します(P4)
	思春期以降の子供たちの中で「デートDV」「ハラスメント」の問題があり、対応の強化が必要ではないか。	「取組7 学校の防災・安全対策の推進」の本文に「性犯罪・性暴力に関する未然防止教育及び早期発見対応等の推進」、主な施策に「生命(いのち)の安全教育の充実」等を追記します(P5～6)
	『不登校への対応』について、『学校内外の専門機関等』に表現を揃えるべき。	該当部分の表現を修正します(P5)
	取組と指標を明確に紐づけたほうが、わかりやすい。	素案の最後に、参考として指標一覧を追加します(P24～27)
高崎委員	外国から来た保護者のケアについても注意して行ってほしい。	「取組14 多様なニーズに対応した教育の充実」の主な施策を、「◎日本語指導が必要な児童生徒及び家庭への関係機関と連携した支援体制の強化」に修正します(P11)
吉田委員	『地域の教育力の向上』について、『ひとり親などの家庭の環境』とあるが、それ以外に経済的に苦しい家庭等も多く、包括的な表現のほうがよいのではないか。	包括的な表現に修正します(P1)
	『DV』も含めて、性被害等の対策について強化する必要があるのではないか。	「取組7 学校の防災・安全対策の推進」の本文に「性犯罪・性暴力に関する未然防止教育及び早期発見対応等の推進」、主な施策に「生命(いのち)の安全教育の充実」等を追記します(P5～6)
	『いじめに負けない』という表現は、当事者にとって酷ではないか。	『熊本県いじめ防止基本方針』にあわせ、当該箇所についての注釈文を追記します(P4)

第3回委員会における主な御意見への対応案について

発言者	意見概要	対応案(ページは資料7 素案の修正箇所)
牛田委員	特別支援学校の整備に関する、主な施策の2項目の違いを教えてください。	当該箇所について、表現を修正し差別化を図ります(P10～11)
	『高等教育との連携』について、誰と誰が連携するか、わかりやすい表現にしてほしい。	より伝わりやすい表現に修正するとともに、熊本サイエンスコンソーシアム(KSC)の取組について追記します(P13)
河田委員	英語教育の指標について、高校生は「GTEC」のスコアをよく使うように見受けられる。CEFRと英検に限定されているように見えるので表現に工夫が必要である。	A1レベル相当(英検3級など)、A2レベル相当(英検準2級など)と表記します(P14)
	『教職員の働き方改革の促進』の主な施策にある「特支サポーター」という言葉について、正確な表現にすべきである。	特別支援学校サポーターに修正します(P18)

○子供からの意見聴取関係

発言者	意見概要	対応案
高崎委員	最大20問程度設問がある場合、2回時期を分けて実施してもよいのではないか。	回答への協力を依頼する学校現場や市町村教育委員会等への負担も考え、1回で実施することとし、質問や選択肢を簡素で平易な表現にするなど、子供たちへの負荷が小さくなるよう努めます
	全ての質問文を具体的に検討できるのか。	現在、設問案をまとめており、後日提示させていただきます
吉田委員	スポーツ選手に関する設問は、文化部門の方も入れたニュアンスがよいのではないか。	文化面については、別の設問を作成して、子供たちの興味関心について尋ねます 設問案について後日提示させていただきます